

室谷洋三先生、瑞宝中綬章受賞

塩 田 勉

ある日、岡山の「なかさんげ囲碁サロン」事務局の佐藤真希という方から、室谷洋三先生が、長年のマードック研究に対して、瑞宝中綬章を授与されたので、お知らせしたいというニュースをいただいた。そういつてはなんだが、妙なところから知らせが来たもんだ、と思いながら、大きな封筒をのぞくと、受賞のニュースを載せた4月29日

の『山陽新聞』と、写真が同封されていた。

『山陽新聞』の「岡山市民版」をみると、受賞者たちのトップに室谷先生が、「人間愛を訴えた現代英国の代表作家アイリス・マードックさん（1999年没）の研究に没頭。精神的自由の獲得をテーマにした論文を日英両国で出版し、98年には国内研究者による学会を立ち上げた。（以下

略)」、と紹介されている。なんでまた、囲碁サロンから、こんなものを送ってきたんだろうと、ネットで調べると、こんなことが書いてあった。(「なかさんげ囲碁サロン」HP、<http://www.igo.satocamera.com/index.php?FrontPage>)

室谷先生は、日本棋院岡山県支部連合会の会長さんだった。ある日、いつも写真のプリントを頼む、サトウカメラに出かけた室谷さんは、その主人佐藤さんとおしゃべりをした。佐藤さんは、ギターが好きで、なんと室谷さん(「先生」ではなく「さん」付けでおよびすることをお許ください)も、ピアノのレッスンを始めていたところだったので話が合い、そのビルの空き部屋もっていた佐藤さんに、遊んでいる部屋を囲碁サロンに変えてみませんか、と持ちかけた。佐藤さんは、室谷さんに碁の手ほどきを受けて、面白さを知り、すぐにこの話に乗った。

室谷さんは、東京大学岡山囲碁同好会から碁石を調達し、日本棋院からも援助を仰ぎ、サロンの開所に漕ぎ着けた。それだけなら、学者の道楽に見えるが、室谷さんは、そのサロンを、子供学習クラブ(囲碁、英語、数学)、女性サロン(休憩と喫茶)、男性サロン(一般碁対局)と三部に組織し、そこで、お茶のお点前、ギター演奏、英語会話などの集会所とし、周囲の知人、同僚、同好会メンバーなどに声をかけ、憩いの場所に育て上げた。一般企業で営業だの、売り込みなどやらせたら、室谷さんは、すぐに重役になれるような商才の持主だったのである。

マードック学会もそうだが、室谷さんは、NHK朝ドラの「あさが来た」に出てくるあさちゃんみたいに、関西系のご根性と、人情の機微をついた経営の上手なお人だったのである。だから、室谷さんが受賞されたというニュースは、阪神が優勝した地元だの、梶田隆章さんや大村智さんなどノーベル賞受賞者を出した埼玉や山梨の地元のように、湧き立ったに違いない。

室谷さんの、ゼロからコミュニティーを立ち上げ、人材と資金を集め、経営する才能は、日本アイリス・マードック学会設立にも遺憾なく発揮された。その点については、会員のみなさんが知るとおりであるので詳しくは語らない。しかし、同時に、研究者個人としても、おびただしい業績を残されている。学会員との共著も多い。(CiNii<<http://www.sf.airnet.ne.jp/ts/filter/kyujitai.cgi?url=ci.nii.ac.jp/author/DA00574269>>)

なんもせずに、碌々と馬駒を重ねてきた私なんぞは、へー、と感心して呆れてしまうような内容と量である。

日本におけるアイリス・マードック研究に先鞭を付けられ、マードックの日本訪問や、日本文化に対する関心を深める上でも、わたしたちの知らない貢献をされてきた室谷さんが顕彰されたことは、当学会にとっても喜ばしいかぎりである。この場をお借りして、お祝いを申し上げますと同時に、みなさんにもお伝えする次第。室谷先生、これからは、お互い、ボケと老化との闘いでっせ。がんばりまっしょ。